

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和6年度高山工業高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和7年2月1日(土) 10:00~12:20
*10:10~10:50 卒業作品展を参観
- 3 開催場所 高山工業高等学校 校長室 (卒業作品展は体育館)
- 4 参加者
(敬称略)

会 長	西田 裕一	高山工業高等学校 育友会長
副会長	見山 政克	高山市教育委員会 教育長
委 員	牛丸 勝	高山市立日枝中学校 校長
	多田 仁	高山市立花里小学校 校長
	小林 慎作	千島町内会副会長
	中田 和子	高山商工会議所 女性会 会長(欠席)
	岡田 明子	飛騨木工連合会理事理事
		飛騨産業株式会社 代表取締役社長(欠席)

学 校 側	岩島 義則	校長
	渡辺 圭子	教頭
	三田 真弓	事務長
	大坪 博孝	教務主任
	高橋 佑介	生徒指導主事
	新家 邦男	進路指導主事
	門前 雅人	工業部長

5 会議の概要

[協議及び指導・講評]

(1) 自己評価の報告と学校関係者評価

① 学校評価について説明(教頭)

意見1: サテライトキャンパスで「協働性・柔軟性・交渉力」がついたと生徒が自己評価していると聞き、ほんとうにそうだなと感じた。先ほど卒業作品展のサテライトキャンパスで実は一つ買って来た。「これ今まで見たことないよね」と話したら、「レジンを使って何かをやりたかった」と生徒が熱く語ってくれた。「どうしてそんなことを思いついたの?」という話から、苦労話とかも聞かせてもらって、もう買わざるを得ない。そうやって語れるってことは本当に素敵なことだと感じた。

意見2: 地域への広報にさらに力を入れたいと聞いた。昨日、内覧会に小学校児童が参加し子供たちが本当に喜んで帰ってきた。今日も何人か来て。微々たる活動かもしれないけれど広報という点で見ると、それが親に伝わって広まっていくといいのかなと思う。もし中

学校に配られる資料の予備があれば小学校にも掲示するので是非いただきたい。

意見3：自己評価の欄について。残業時間がまだ結構あるのにB⇒できた という評価になるのはなぜか。開示できていない所があるのかもしれないが、年度目標に数字が無いのが気になる。頑張っただけの事をやっていることはよくわかっているの、そこを改良してもらえると良い。

② 各分掌の指導の重点と自己評価

ア 教務部の取組について説明（教務主任）

意見4：スタディーサプリは数学の他に国語等、他教科にも使われているか。

⇒英語のリスニング検定対策や生徒によっては公務員対策等に使っている。自分で講座を探してどんどん見ることができる為使えば使うほど便利。評価は現在のところ賛否両論である。

意見5：授業のしづらさとは、どのようなところに感じているのか。

⇒生徒の気持ちや授業に向いていかず、気もそぞろの感がある時がある。

イ 生徒支援部の取組について説明（生徒指導主事）

意見6：作品展を2回目見せていただいた。去年と見ると本当に発想やアイデアがすごく良かった。今年の完成度はいい。今度の学習指導要領は、人づくりにシフトチェンジする。人口減少でやはり一人一人を大事にして、人づくりに力を削いでいこうと。高山市もウェルビーイングという生きがい大切にしていこう。それではこの工業はどうすべきか。ものづくりを通して人づくりにシフトしていくと良いのではないかと。生徒指導の面ばかり、いろんなところに波及してくると思う。

意見7：先日コンビニで夕方、「こんにちは」と声をかける高校生がいてびっくりしたことがあった。誰だろうと思ったら・ああ、朝よく見かける子で。顔覚えていてくれたのかなと。このように地域で行う挨拶の地道な運動が色々なところに広がっているのではないかと。ぜひ続けていただけるとありがたい。

ウ 進路支援部の取組について説明（進路指導主事）

意見8：高山地区への就職率がなかなか伸びないというところは社会の問題。給与の格差ややりたい仕事がないという問題もあるかと。そのような中、どこに就職したらいいかわからずとりあえず都会にという生徒も多少はいると思う。そういった子供たちに本当はどんな仕事がしたいのかということを確認にフォローしていただけると。実はこんな会社も高山にもあるという発見に繋がるかもしれない。

意見9：就職者の定着率はどうか。学校で育てなければいけない力を見ていく上では大事なのではと思う。

⇒一般的に高校生の場合、働いてから三年間間で約3割の方が離職する。本校でも昨年調査した時はやはり3割近くの方が離職していた。離職の理由については、いろいろな事情はあるが、一番は自分自身で進路を選択できなかった方が離職していると分析する。親が言ったからとか、先生が紹介してくれたからと言って決められた方・自分が何をしたいのかを見つけられず就職した方の離職が多い。本校ではその分析以降、生徒の主体的な進路選択を促すキャリアサポートにシフトすべく改革中である。

意見10：岐阜県は起業する割合が全国でも低い。起業の喜びとか面白さを子供のうちに教えておくと、高山工業高校でいろいろな技術や力を専門的に身につけた人たちが外へ出て行って勉強した後、「高山に帰ってきて起業しようかな。」と思えると思う。

エ 工業部の取組について説明（工業部長）

意見11：高山工業高校では生成AIについてどう学び、どう活用されているか。

⇒卒展の中でも電子機械科の空き缶ペットボトル分別機のところにAIを入れてい

る。今スタートしたところで、県の工業教育の中にも AI、IOT というのは出てきている。職員がこれから学習をして子供たちにも適切に活用を促していく。

意見 12：卒業作品展で「さるぼぼブザー」について生徒さんが非常に自信満々に話しているところを見て、「ものづくりの楽しさを味わってくれているんだな」と非常に嬉しく思った。志高く生徒が頑張っている。子供たちが楽しそうにやってくれているのであれば、どんどん外部人材も入れてレベルの高い話を工夫しながらやっていただくと有難い。

(2) スクールミッションについて説明（学校長）

全員了承

(3) 生徒心得の改定について説明（生徒指導主事）

異議なし

6 会議のまとめ

卒業作品展の参観では、生き活きとして語る3年生一人一人の生徒の姿から、生徒が主体となった本校の課題研究の授業について多くの委員の皆様から高い評価をいただくことができた。全校生徒や教員に伝え、今後の励みとしていきたい。その後、今年度の学校教育体制の振り返りを報告しご意見をいただいた。ご指摘のあった点については早々に職員一同と共有し、改善に繋げるなど、来年度の教育活動をさらに充実させていく。

また、スクールミッション（案）と生徒心得の改定については了承いただくことができた。